

南アフリカ

Voice of Free South Africa

1996年5月

自由の声

No. 11 発行 アジア・アフリカと共に歩む会
Published by
Together with Africa and Asia Association(TAAA)

1996年5月の報告と計画

- 3月にケープタウンへ4752冊。4月にベノニその他へ8172冊送付。
- 5月に2台の移動図書館車を発送する。
- デベトンの小学校内に移動図書館のベースとなる建物が6月に完成予定（TAAAとボランティア貯金からの出資による）。
- 5月にTAAAより野田と久我がケープタウンとベノニを訪れる。
- 植田智加子さんがTAAAのケープタウン通信員に。

目次

ELETのプロジェクト.....	2
協力者の紹介.....	3
災害外国人学校支援の決算.....	4
「ぶりむら」より.....	5
活動一覧表.....	6
1995年度決算書.....	7
お知らせ.....	8



1996年9月 バレードで迎えてくれる東ケープ州ボンバズスクールの生徒たち。送付した本を使って授業をしている。

1996年3月19日

アジア・アフリカと共に歩む会 宛

プロジェクト計画

英語教育財団
ジュリア ソスキン

A) ネット・プロジェクト部とリソースセンター共同による現在および今後の移動図書館車活用について

移動図書館車の使用期間：1月から11月の間、1ヶ月のうち約12日間。

走行距離：場所によって異なるが、1回の巡回につき平均300～600キロメートル。

移動図書館車の使用法：以下のものを運搬し、Teachers' English Committeeに支給する。

- (a) 「アジア・アフリカと共に歩む会」からの寄贈教材。
- (b) ダーバンのリソースセンターからの貸し出しである、本、雑誌、定期刊行物、ポスターおよびビデオテープ。
- (c) ELET作成の教材およびそれに関する情報。
(小・中学生用の教師用副教材16冊、小・中学生用の学習ブック、教師用の解説書、低コストで電気を使わない自家製複写機およびその解説書)
- (d) 「Argus Press」から寄贈された新聞紙と副教材。
- (e) その他の寄贈書物など

B) リソースセンター、教材部、養成部、指導部による移動図書館車の今後の活動について

現在プロジェクトに参加している教師に上記(a)～(e)と同じサービスを提供する。

1. 教材部

移動図書館車の使用期間：1月末から3月末までの間、生徒用学習ブック約3万冊および教師用解説書を遠隔地や以下のタウンシップに運送する。ネット・プロジェクト部が使用する期間(上記参照)を除いて、図書館車を継続的に使用していく。

走行地域と概算走行距離(1回当たり)

クワズル・ナタール州：Kamuzembe x 3(260km), Ndewedwe x (352km),
Madadeni x 2(380km), Ladysmith x 2(730km), Estcourt x 3(860km),
Msings x 3 (790km), Inkanyezi x 2(410km)
東ケープ州：Bizana(560km), Tabankulu(640km)

教材部による移動図書館車(大型および小型)の使用期間

4月と5月

1ヶ月のうち約8～10日間

1996年の上記以外の月 使用期間は、現在交渉中であるMpumalangaと北ケープ州との新契約によって決まる。現在ダーバン港から受取ろうとしている大型移動図書館車は大いに役立つであろう。小型の移動図書館車は4千冊もの荷物を運送することはできないので今まで遠方の北ケープ州に配送するにはコスト高の航空便に頼る必要があったからだ。

現在使用している小型移動図書館車は、教材開発に関するワークショップを提供する活動において引き続き使われる。ワークショップの内容には、英語の授業に関する学習教材の作り方や使用法などがある。このようなワークショップは、リソースセンターのコーディネーターと共同で行うこととなる。ワークショップの頻度は、1ヶ月の平日2.0日間のうち約5～10日間である。

本の作業に参加している人の自己紹介

◆島田勝

私は1933年、貧しい山村の農家に生まれました。小学校時代は第二次世界大戦下で殆ど農家の手伝いに明け暮れ、勉強する時間ありませんでした。食べるものも着るものもなく、読むものといえば教科書と新聞だけでした。教科書は全部暗記するまで読み返しました。戦争に敗れ、厳しい状況の下でいつの日か外国に肩を並べる日を夢見て、お互いに必死で頑張りました。昼間は働き、大学の夜間部を卒業し、洋書輸入の会社に入りました。以来40年以上洋書の仕事に携わってきましたが、その間世界の70ヶ国以上と交渉をちやみこましました。アフリカ大陸でも南ア含む10ヶ国に及んでいます。そんな時「アジア・アフリカと共に歩む会」を知りました。私が子供の頃読みたくても本も買えなかった時代を思い出し、少しでも同じ悩みをもっている南アの子供達の役に立ってほしいと思い入会しました。今後もできるだけこの仕事に協力したいと考えています。

◆矢野明海

私は大宮市に住んでいます。23才の会社員です。仕事はNTTの下請けで、主に交換局内で働いています。

この会を知ったのは朝日新聞の記事で、その時は大学2年生でした。国際関係学部で、国際協力等の勉強をしていましたが、ただ知識を詰め込むだけで何も国際協力といったことをしていない自分にもどかしい気持ちがあった時でした。そしてとにかくどんな小さなことからでも始めようと思い、南アフリカへ送る本のパッキングの作業に参加しました。もう2年以上になりますが、パッキングで汗を流したり、南アフリカの留学生と交流したり、充実していたと思います。移動図書館車のプロジェクトも順調で、2年前よりもずっと活動が大きなものになってきて、本当にうれしです。

私自身小学校時代は何といても毎週土曜日に弟と図書館へ本を借りに行くのが楽しみでした。新しい本を読み始めるときのわくわくした気持ちを、南アフリカのたくさんの子供達にも感じてもらいたいと心から思っています。これからも楽しくやっていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

2. 養成部および指導部

教材部、ポスト・プロジェクトおよびリリース・センターからの移動図書館車への需要が大きかったため、養成部と指導部は今まで移動図書館車を使用することができなかった。

養成部

ケニア・タンザニア州および東ケニア州における比較的近隣地域で移動図書館車を使用して、教師対象のワークショップを開いたり、「アジア・アフリカと共に歩む会」から寄贈された本やELETの本などを配送することができる。遠方への巡回には使用しない。

指導部 (教師養成コース)

移動図書館車を使って「アジア・アフリカと共に歩む会」寄贈の本やリリース・センターの本を地域中のPETRA事務所に配布するなど、PETRAプロジェクトに移動図書館車を使用することができる。

3 今後の進展

今年度末以前、以後ともにリリース・センターをはじめELETのほとんどの部には、確実な基金がなくなるため、ELETのサービスの営業活動が重要な仕事となる。そして遠隔地や遠方のワークショップにいる教師に教科書・教材を配布するためにも、移動図書館車を最大限に活用していきたい。

おそらく、1ヶ月のうち12~15日間は使用して、ワークショップを開催したり、本を配布するようになるだろう。

要約:

小型移動図書館車は、1ヶ月約4分の3の期間、毎月使用されることになる。大型移動図書館車を最大限活用できるかどうかは、現在のところ、ELETが運転手を確保できるかどうかにかかっている。適切な運転手を見つけて給与を支払うことができるようであれば、リソースセンター、教材部および指導部が大型移動図書館車を使用していくことになる。これにより、「アツ・アツと共に歩む会」寄贈の本を配布したり、リソースセンターの教材貸し出しを行っていく。毎月(1ヶ月4分の3)、学年末の11月までこの活動を続ける。(久我祐子、程塚明子共訳)

ごあいさつ

ご健勝のこととお慶び申し上げます。

皆様方の温かい励ましと心のごもったご支援に勇気づけられながら、東神戸朝鮮初中級学校の新校舎を一日も早く再建するために奮闘してまいりました私たちは、去る3月10日、新校舎建設起工式及び復興バザーを3,300名の人々の参加のもとで、盛大にとり行いました。

私たちは、起工式と復興バザーの成功をばねにし、建設事業を力強くくりひろげ、来年2月の新校舎竣工をめざして全力をつくす所存でございます。

皆様方の温かいご支援に重ねて感謝の意を表しご健勝を祈念いたします。

1996年3月19日

東神戸朝鮮初中級学校新校舎建設委員会
建設委員長 姜 哲
建設委員長 盧 珠球

外国人学校災害義援金についての報告

総額 1,263,877円

	1995年5月2日	1995年6月27日	1995年10月18日	1996年3月28日
中華同文学校へ	77,000円	114,400円		
東神戸朝鮮初中級学校へ	311,200円	457,600円	233,677円	70,000円

多くの皆様から、会を通じてのご援助をいただき、心から感謝いたします。4月以降は「アツ・アツと共に歩む会」を通さずに直接、東神戸朝鮮初中級学校へ振込んでくださるようお願いいたします。

《義援金振込先》朝鮮兵庫信用組合 三宮支店

普通 1000010

東神戸朝鮮初中級学校教育会

〒651神戸市中央区臨浜町1-6-1

東神戸朝鮮初中級学校新校舎建設委員会

TEL 078-251-1880

(矢野明海)

訪問

埼玉県民部自治文化課
発行「ふりむら」1996.3.15号より



3人で1冊の教科書

輝く瞳を思い浮かべながら発送作業

南アの子供たちに英文の本を送り続ける「アジア・アフリカと共に歩む会」(与野市)

For CAPE TOWNと書かれた箱がいくつも荷造りされていく。全国から送られてきた英語の書籍を仕分けし、段ボール箱に手早く詰め込み、ガムテープで封印。重さを計り、マジックで冊数を記入。1箱が20kg以上に達するから持ち上げるには結構重い。これを倉庫に運び込む。月に一度の梱包風景だ。数がまとまると、船便ではるか南アフリカ共和国のダーバンやケープタウンに送られる。

この単調で地道な作業に参加するのは毎回10〜20人。塾講師・会社員・教師、子育てを終えた主婦など職業も遠くは10代から60代と年齢もさまざま。2年前、新聞で会の活動を知って参加した島田勝さん(62)は元洋書専門会社勤務。本に囲まれていれば幸せ、少しでもお役に立てればとお手のものの分類に余念がない。傍らの女子高校生たちはボランティアで修行中で、この日顧問の先生に連れられ手伝いに。いろいろなお話をして学ぶところが大きい」と早くも手応えを感じているよう。

アジア・アフリカと共に歩む会(野田千香子代表/55)は4年前の春に誕生した。南アフリカ共和国では、3年にわたる白人支配下であったためアパルトヘイト(人種隔離政策)の撤廃後も黒人居住区での教育環境は劣悪。そのことを知った野田さんは、日本から英文の教科書を送ろうと決意。知人を誘って使い古しの教科書や事典・図鑑などの英文図書を集め始めた。

最初の2か月間で予想外の6000冊もが集まった。新聞記事で会の活動を知り、校内で何百冊も集めて送ってくれた女子学生をはじめ、高校やインターナショナルスクール、座間や厚木などの米軍家族から提供を受けるなどネットワークは拡大。1年目で約2万冊、2年目約5万冊。この4年間でなんと8万冊、2トトラック10台分以上を送ったことになる。

会の発足2年後の92年3月には、野田さんと高校の社会科教師・下谷展彦さん(31)が本の配布先のひとつ、ダー



分類し、仕分けをし、ダンボール箱に詰める

いたたい本を搬入

代表の野田さん

バン近郊の黒人居住区にある小学校の現状をつぶさに見てきた。

「机も黒板もない教壇。教科書は先生が1冊持っているだけ。それを大事に使っていました。教育そのものがとても遅れていると実感できました。でも生徒たちは一生懸命に授業を聞いている。その輝く瞳が印象的でした」と野田さん。下谷さんも「送った本が子供たちにこう使われているんだとこの目で見たときは、正直いって、ジーンときました。送ることの意味を再認識したという」。

94年秋からは、現地の要望もあつて送られた本がもっと有効に使われるように、移動図書館車のプレゼントも開始した。埼玉県内の図書館で使われ、廃車になつてきた移動図書館車。それを浅見克則さん(46)が中心になつて探

し出し、整備し直して送る。すでに最初の2台は南アの町々を走っており、現在、整備中の2台もまもなく船出す。図書館車を使えば、送った本が4倍も5倍も有効に生かされます」と浅見さん。

教科書を持ちわびる子供たちの目の輝き、それを思い浮かべると、作業にも自然と力がこもる。「本、労力、資金のどれもが必要。協力いただける方はぜひ連絡を」。野田さんたち全員の願いだ。



図書館が到着、小・中学生が迎える

会が発足2年後の92年3月には、野田さんと高校の社会科教師・下谷展彦さん(31)が本の配布先のひとつ、ダ

「アジア・アフリカと共に歩む会」がアパルトヘイト政策のもとで廃された黒人の教育援助しようとして1992年に発足。本の発送のほは高ア関係の機材を準備、全国に友人はどの様な支店者に「南アフリカ自由の国」も新聞発行、本の発送責任担当が大きいのが目下最大の悩み。連絡先〒335-0104 与野市大入5-17の1 野田千香子さん、電話048-832-2227

「アジア・アフリカと共に歩む会」(TAAA)の
南ア移動図書館活動の現状と予定一覧表

野田千香子

	METHODIST EDUCATION INITIATIVE (MEI)	ENGLISH LANGUAGE EDUCATIONAL TRUST (ELET)	MASIFUNDISE マシフンディセ
設立と内容	メソヂスト教会員と学校教員のボランティア組織。黒人学校の教育発展と識字学習活動。専従なし。設立4年。	各国、企業、政府の援助による。数100キロ範囲の学校へ入って教育援助を行っている。専従50人。パートタイム、ボランティア21人。設立12年。	全国組織TCOE8団体のひとつ。TOCEの発達は20年以上前。市民参加型NGO。専従10人。
代表	Mr. DAVID BENTLEY	Mr. MERVIN OGLE	Mr. MP GIYOSE
所在地	ベノニ市(ヨハネスより30キロ)	ダーバン市	ケープタウン市
配備地	①の車: デイブトン(ベノニ市隣黒人居住区、人口40万。学校数40。1校生徒数1700人。1996.7より稼働。 ②の車: スプリングス(ベノニ市隣)	クワズール-ナタール州と東ケープ州300~700~キロの範囲の学校コミュニティへ。1996.1より稼働。	ケープタウン市と近郊。
車の送付	2台(1995.4 1996.4)	2台(1995.4 1996.4)	2台(1996.10~11)
以前の使用自治体	埼玉県松伏町、東京都日野市	埼玉県越谷市、狭山市	埼玉県の2市(鹿本予定)
管理	上記①②ともMEI	ELET	MASIFUNDISE
運営	①MEI ②ハウテン州教育省	ELET	MASIFUNDISE
人件費	①②ともハウテン州教育省	ELET	MASIFUNDISE
ガソリン	①MEIとTAAA ②ハウテン州	ELETとTAAA	MASIFUNDISE
ガレージ	TAAAの援助で6月に①のガレージ完成。	駐車場料金をTAAAが負担。	MASIFUNDISE
受益者数	1ヵ月 4万人	1ヵ月 1万5千人	1ヵ月 1~2万人
現地の図書館指導	移動図書館担当歴7年のTAAA会員古我貞夫が9月と3月、各10日間、現地指導。	ELETは教育全般にわたってキャリアが長く、各専門家も揃っているのとくにノウハウ。	行わない。
進捗状況の把握	平均月6~7回のFax、Tel。年2回の視察。稼働状況の把握は報告のフォーマットを制作中。		
配備先選択の根拠	4月送付の2台目はハウテン州の運営・出資が決定したため。	1台目が小型で古いいため遠距離走行の多いELETには新しいもう1台が必要。ELETの強い要望でもある	送付の際、自主運営を付帯条件としている。
今後の運営	①について: ガレージが完成。スタッフは州の公費。その他の	ELETは前年度とはいえ、Anglovaalからの援助で基盤は安定している。移動図	今後も自主管理。運営。